

決定!! 第3回 ポラみみアワード

みなさんはボランティア活動に参加されていますか?応援しているNPO団体、共感するボランティア活動はありませんか?ポラみみより情報局では、この地域で活躍するボランティア・NPO団体に、エールを込めてその功績をたたえようと、2015年にポラみみアワードを創設しました。第3回を迎える今年は、候補団体20団体の中から、ポラみみより情報局スタッフらの投票によって選んだ5団体に贈ります。持久力のある活動のほか、今の時代を映す活動まで、この地域のボランティアの底力、あらためてすごいです!!

公益財団法人 アジア保健研修所(AHI)

「ひとからひとへ」。人を育てるNGO

アジア各地の村で人々の健康を守るために活動する現地の保健ワーカーを育成するNGO。多くのボランティアに支えられ、1980年から活動を続けてきた。主に国際研修をはじめとするさまざまな研修や、日本の人々を対象にした国際理解プログラムを行う。国際研修では、愛知県日進市にあるAHIの施設内でアジア各国から集まった参加者が衣食住を共にしながら、それぞれの地域で抱えている問題についてシェアできる場を提供している。参加者同士が学びあうことによって、彼らが地域に帰ったとき、そこに住む人たちが主体となって問題を解決していくことを願い、ひとからひとへと繋がる活動を目指している。



DATA 設立:1980年 ボランティア数:200名 TEL:0561-73-1950 FAX:0561-73-1990
Eメール:info@ahi-japan.jp HP:http://www.ahi-japan.jp

おてらおやつクラブ

「おそなえもの」を子どもたちに「おすそわけ」

全国47都道府県で500ヶ所以上のお寺が賛同している活動で、日々お寺にお供えされるお菓子などの「おそなえもの」を、仏さまからの「おさがり」として頂戴し、ひとり親家庭支援団体などの協力の下、経済的に生活が困難な状況にある家庭に「おすそわけ」している。愛知・岐阜・三重の東海エリアでは、支援団体へのおやつ配送は、お寺の僧侶の方々ができる限り直接手渡しで行っている。お互いの顔と顔が見える関係を築くことで、人との繋がりを大事にし、子どもたちの成長を見守る。また、発送時におやつと一緒に僧侶からの手紙を同封するなどの心温まる工夫も。おやつ「おすそわけ」を通して地域の人々と共に子どもたちを見守る縁を結び、貧困問題の解決を目指している。



DATA 設立:2013年 ボランティア数:賛同寺院・一般ボランティアを加えると約600名
E-mail:mail@otera-oyatsu.club HP:http://otera-oyatsu.club

特定非営利活動法人 チェルノブイリ救援・中部

原発事故被災地の人々とともに

1986年に起きた旧ソ連(現ウクライナ共和国)のチェルノブイリ原発事故を受け、1990年4月に、ウクライナの被災者への支援と現地の自立を目指して発足。日本の民間団体として初めて、救援物資を携えて現地を訪れた。それから26年間、被災地の病院への医薬品・医療機器の提供や、汚染されていないミルクの支援、被災者の子弟への奨学金供与、汚染地「ナロジチ」の再生・復興支援などを継続。2011年3月の福島原発事故の発生以降は、日本国内でもチェルノブイリ支援の経験を生かして、被災した人々への支援活動を開始。南相馬市で空間線量測定を行い、線量率マップを作成して地域住民に配布。また「放射能測定センター・南相馬 とどけ鳥」で、飲料水・食品・土壌などの測定を行い、被曝を軽減して安心・安全な暮らしに役立つ情報提供活動を、地元の人々とともに続けている。



DATA 設立:1990年 ボランティア数:15名 TEL/FAX:052-228-6813
E-mail:chqchubu@muc.biglobe.ne.jp HP:http://www.chernobyl-chubu-jp.org

ボランティア守山つくしの会

作業所に訪れる人たちに温かい料理と笑顔

「守山つくしの会」は、こころに障がいを抱えた人たちに温かい家庭料理の昼食を提供しているボランティア団体。社会福祉法人「もえの会」が運営している「萌作業所」を支えるための活動として通所者の昼食づくりをしている。萌作業所では、お昼が近づくくと、キッチンからは野菜を切る音が聞こえ、料理のいい匂いが漂ってくる。守山つくしの会では20年以上に渡り、毎回20人分ほどの栄養満点の昼食を作っている。メンバーは40代~70代の女性を中心に、多くの方が仕事のかたわら、無理のない範囲でボランティアを続けている。また年に一度、地域に向けたイベントを開催し、地域の人たちとの架け橋になる活動も行っている。



DATA 設立:1993年 ボランティア数:11名 TEL/FAX:052-793-8384
Eメール:moe-sagyousyo@s5.dion.ne.jp(連絡先は萌作業所になります)

FACE・TO・FACE

活動の原点は子どもたちの笑顔

子どもたちに普段とは違う外部の人と触れ合ってもらおうと、なかなか外出が難しい子どもたちに遠出する機会を作ることを目的に、1993年から活動を開始。原則として毎月第4日曜日に、和進館児童ホームに入所している子どもたち(3歳児から小学1年生)とのふれあい活動を行ってきた。お話や遊び相手、買い物の付き添いのほか、施設の行事支援として海水浴や雪遊びなどへ子どもたちと一緒に出かける。子どもたちが笑顔で元気に過ごせるよう、活動後の振り返りや和進館スタッフとの打ち合わせの時間も大切にしている。「自主性を大切にする」、「自分ができることからやる」、「思いやりのある活動を目指す」、「自分も楽しみながら、相手から学び、そして続けていく」という考え方のもと活動中。



DATA 設立:1993年 ボランティア数:20名 TEL/FAX:052-798-4687(19:00~21:00)
Eメール:k-2130@re.commufa.jp